

## ◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<12月> 業界の景況(前月比DI値)

オミクロン株の感染拡大の影響が不安視される

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

業種		業界の景況(前月比DI値)			
		令和3年9月	令和3年10月	令和3年11月	令和3年12月
製造業	食料品製造業	 △ 20	 40	 33	 33
	木材・木製品製造業	 0	 0	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 0	 0	 △ 67	 0
	鉄鋼・金属 同製造業	 0	 100	 33	 33
非製造業	卸売業	 0	 0	 △ 25	 0
	小売業	 △ 40	 △ 60	 △ 60	 △ 60
	商店街	 △ 67	 0	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 △ 43	 0	 33	 33
	建設業	 △ 40	 △ 20	 △ 20	 △ 40
	運輸業	 △ 100	 △ 50	 △ 50	 △ 50
	その他	 0	 △ 100	 0	 0

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	県内のコロナ感染者数の減少にともない、人の動きが出てきたようだ。いまだコロナ前のような状況には戻っていないが、少なからず味噌醤油の出荷量に動きがあり安堵している。しかし前月同様、ここに来て原料である大豆・小麦、そして石油関連商品資材などの値上げが異常なスピードで迫ってきている。味噌醤油価格に転嫁したいところだが、なかなか転嫁出来ないのは中小企業の悩ましいところである。生き延びるためには、正確な情報を取引先に理解して頂く様、最大なる努力が必要である。
冷凍業界	石巻港主力の巻き網サバの水揚げが時化、不漁により漁獲が不安定で浜値も高騰している。水温や海流の変化に伴い、魚種の北上傾向と不漁に直面している。
水産練製品業界	人手不足が続き、まともに稼働できないラインが出てきている。
酒造業界	新型コロナウイルス新規感染者数の伸びの鈍化に伴い、飲食店の営業規制が解除されたことに加え、忘新年会シーズンに入ったことを受け、先月に比べると出荷数量は増えているほか、わずかではあるが前年を上回っている。一方で、企業の約7割が忘年会の開催を控える動きの影響か、一昨年水準までは回復していない。さらに、年が明けてから、全国的に急激な感染拡大に転じてきていることを受け、今後の見通しは不透明な状況が続いている。
木材業界	11月の住宅着工数は1,650戸で前月比13%増、前年同月比14%増となり、5カ月連続で前年同月を上回った。年間着工数も、すでに前年を上回っている。原木価格は値上がり傾向が続いている。製材工場はフル稼働を継続しており、地元市場での製品荷動きは落ち着いてきた。製品価格は高値安定、合板原木はひっ迫感が続いている。合板工場もフル生産だが、不足感は厳しい状況が続く。合板価格は、接着剤や輸送コストなどの上昇もあり、もう一段の値上げとなった。
印刷業界	材料費の値上げが続き、価格転嫁も困難な状況から、今後の収益に与える影響を危惧している。またオミクロン株を始め、新型コロナの感染状況も予断を許さず、回復しつつあるイベントについても影響は必至である。デジタル化などから紙媒体の減少傾向もあり、業界を取り巻く環境は厳しさを増している。加えて、後継者問題等から、今後廃業・倒産が相次ぐ可能性もある。
生コンクリート業界	原油価格の高騰を受けた軽油やセメントなどの原材料の値上がりに伴い、生コン価格にも値上げの動きが見られる。
コンクリート製品業界	11月の出荷量は、前年同月比74%と減少、前月比では119%と増加した。4月からの累計では、前年比87%と減少となった。今後、年

	<p>度末に向けての出荷促進をしなければならない状況である。</p> <p>(※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です)</p>
機械金属業界 A	<p>売上高は、業種によりバラつきが見られるものの、全体的に景況感は回復基調にある。ただし、新型コロナウイルスの感染急拡大が懸念されるため、今後の動向を注視していきたい。</p>
機械金属業界 B	<p>前月同様、機械設備関連で動きが活発化しており、見積り引き合い、受注案件が前月より更に増加し、売上も前年に比べ大きく伸びた。しかし、急激な原材料価格の上昇や資材不足により今後影響が大きく出ることが懸念される。</p>
各種卸売業界	<p>新型コロナウイルスの影響が続いている。</p>
再生資源業界	<p>11月から下落に移行した鉄スクラップ市況は、12月も全般的に下落した。国際市況も低下し、全般的に下げ基調のまま越年したが、国内の発生は悪く、中国の旧正月明け(2月1日以降)が新たなターニングポイントとなる。古紙は製紙メーカーが板紙(ダンボール)系の製品の値上げに踏み込んだものの、古紙の価格への反映は鈍く、発生の連続的な不足にもかかわらず、局地的な小幅な値上げとなり、輸出価格も上昇はみられなかった。</p>
ゴム製品業界	<p>12月は多少の景気回復を感じたが、各メーカーで商品不足が発生しており、納期対応がかなり深刻になっている。材料不足で製造が遅れ、メーカーの在庫が確保出来ず対応が遅れが生じている。今後の予測としては、更に価格改定が起きて来るのではと考えられる。</p>
鮮魚卸売業界	<p>12月に入り、コロナ禍の終焉を感じる人が増えたのか、来場者が大幅に増加している。一般小売は好調に推移しているが、料飲店の仕入は数量、価格ともに好転していない。仕入価格がこれまで低調であったことから、これを維持しようとする力が働いている。</p>
鮮魚小売業界	<p>年末の売上高を期待したが、主力魚種であるマグロ、カニ類、新巻鮭、イクラ、数の子、貝類等が高騰し、大変な年末であった。しかし、ナメタが豊漁で価格が安く救いであった。</p>
青果小売業界	<p>12月中旬以降の寒さと雪の影響で、エンドユーザーが外出を控えたことや、セリ、タマネギ、ジャガイモなど一部商品を除き、野菜価格は安値安定であったこと、コロナや高齢化により、玉飾りや輪通しなど、お正月用品を作成し、市場へ出荷していた農園の廃業が響き、全般的に年末商材の動きは悪かった。しかし、飲食店やホテルへの納品量は回復傾向にあったことで前年対比96.8%だった。</p>

家電小売業界	世界的に部品調達が困難となっている問題が解消されていないため、給湯器や暖房商品等、品不足が続いている。入荷時期も2月初旬頃との見通しで、これから寒さも一段と厳しくなっていく中で、需要はあるが供給が出来ない状況である。
石油小売業界	原油価格は、新変異株「オミクロン株」の感染拡大が懸念されている状況の中、重症化リスクが低いとの見方も交錯して変動しており、経済活動に与える影響が定まっていらないのに加えて、一部の産油国が増産に慎重な姿勢を示しており、今後の原油価格の見通しは不透明な状況が続くと予測される。
花卉小売業界	当月売上については、前年同月比で108.6%、また前々年比でも107.3%と、月間売上としてはコロナ以前の例年並みとなった。ただし、クリスマス、忘年会等の年末需要には依然として新型コロナウイルスの影響が残っており、活気がなかった。葬儀に伴う生花需要も月の下旬から増加が見られたが、家族葬の増加や、葬儀の簡素化に伴い、売上高の増加には至っていない。新型コロナウイルスの規則緩和により一部に持ち直しが見られた売上も、オミクロン株による第6波の影響で再度落ち込むことが懸念される。
商店街	<p>(仙台地区 A 商店街) オミクロン株の動向を注視したい。</p> <p>(仙台地区 B 商店街) 人出は徐々に回復傾向にあるが、一向に売上には結びついていない。飲食は一時、若干戻りが見られたが、年末にかけて、出足が鈍くなったようだ(カウンターだけの小人数の飲食店は別だが)。</p> <p>(大崎地区 A 商店街) コロナ感染者数の減少傾向で、商店街の活気に復活の気配が感じられていたが、折からの大雪で再び商況は萎えてしまった。国土交通省からお借りしている除雪機によって、商店街の除雪は行き届いているのが救いだ。</p>
自動車整備業界	自動車整備業界の基盤となる車検台数については一時減少となったが、全体としては大きな変動は無い。コロナ関連で部品・用品の調達に滞りがあり、新車の納車にさらに遅れが発生しそうな状況となっている。将来の車検台数に影響する事が予想される。
廃棄物処理業界	新型コロナウイルス感染症の影響により活動規制があった。技術者等の高齢化に伴う採用人員が少ない。国内においては新規感染者数が減少傾向にあり、他業種では徐々に売上が戻ってきたという話も聞くが、まだ廃棄物処理業界では売上回復には至っていない中、新たな変異株が確認されるなど、不安要素を抱える。

警備業界	<p>旧態依然とした警備業の低賃金体質が警備員不足の元凶とすると、警備料金の値上げだけを叫んでも、現場の警備員の処遇改善に結びつくとは限らない。この度、東北地区警備業協会連合会と北海道警備業協会は、両者青年部の連携強化を図るため、協定を締結することとなった。警備業を改革できるのは古い体質では無く、そうした新しい若い力なのかもしれない。2025 年問題を目前にし、少子高齢化の状況が一層顕著になったとき、警備業を産業として支えていくためには、今までにない発想が求められる。2022 年を迎え大きな発想の転換が求められている。今、宮城県の警備会社の多くは創業初代からの世代交代の時期に差し掛かっている。若い世代の躍進に期待したい。</p>
湾岸旅客業界	<p>前年は、新型コロナウイルスが蔓延拡大の様相を呈してきたため、GO TO トラベルキャンペーンでの好影響は急激に影を潜め、売上の伸びは中旬以降下がりが始めたが、本年 12 月は、前月に引き続き感染が落ち着く中、売上は 30%程の伸びとなった。結果として前々月、前月と同じく GO TO トラベルキャンペーンが再スタートしていない中、健闘した。今後オミクロン株が忍び寄るが、今後とも感染症対策を万全に行っていく。</p>
ホテル・旅館業界	<p>宮城県内における新型コロナウイルス感染者数が落ち着いており、県民割も 3 月上旬まで延長され、景況感としてはプラスに転じている。ただし、オミクロン株の推移によっては、今後予断を許さない状況も懸念される。</p>
建設業界	<p>復旧・復興事業も収束を迎え、令和 3 年度における県内建設投資額が極端に減少していることから、各企業における受注状況も大変厳しい環境となっており、競争の激化にも繋がっている。令和 3 年度補正予算における公共事業費の宮城県への配分により、多少確保はしたところであるが、令和 4 年度当初予算における大幅な確保が望まれる。県内沿岸部における整備は進んだものの、内陸部や老朽化対策等は復興優先で後回しになっており、国土強靱化・老朽化対策における安定的・継続的な未来への投資が期待される。</p>
硝子業界	<p>令和 3 年は、一時、地震の影響により売上増となったが、材料の値上げや新型コロナウイルスの影響など、不安の大きな 1 年であった。新しい年に期待したい。</p>
電気工事業	<p>資材調達が難しい状況が続いている。</p>
板金業界	<p>12 月は、前月同様にガソリン代や材料費の値上げ等あり、収益状況はあまり良くない。</p>
タクシー業界	<p>令和 3 年 12 月の輸送人員及び収入は、年末にかけては前年よりも</p>

	<p>良好であったが、天候による影響もあったのか、令和元年の3分の2程度にとどまっている。LPG 価格は、前月同様に高値で推移している。</p>
倉庫業界	<p>前月比では、全体的に売上高(収入)は微増となった。品目別では入・出庫量がともに増加したのは金属製品機械、窯業品、食料工業品、雑工業品、雑品である。他の品目は入・出庫量がともに減少している。前年同月比では、荷動きが若干増加し、売上高(収入)も微増となった。品目別では入・出庫量ともに増加したのは、金属製品機械 食料工業品、雑工業品、雑品である。他の品目は入・出庫量ともに減少している。</p>
不動産業界	<p>前月同様、3月入居の学生向け賃貸マンションの引き合いが多かった。また、ファミリー向け新築賃貸マンションについても、申込が堅調である。</p>